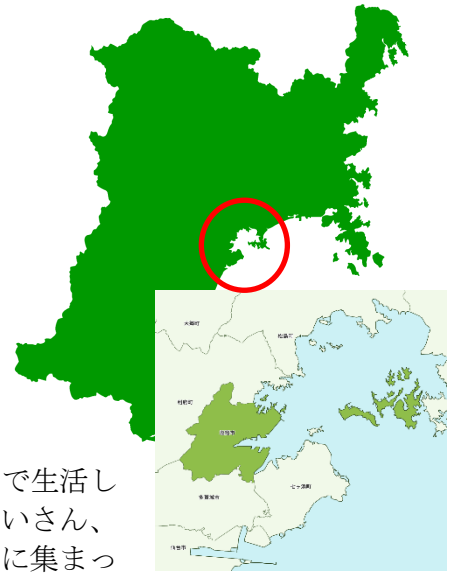
大和町立小野小学校　校長室だより　『明るく　賢く　強く生きる子供』

未来を夢見て Season２

2022/3/11　No. 132

「令和３年度みやぎ鎮魂の日集会」にあたって～東日本大震災から１１年～

　私は当時、塩竈市の浦戸第二小学校という島の小さな学校で教頭先生をしていました。
　平成 23 年 3 月 11 日金曜日。その日は、同じ校舎で勉強している中学生の卒業式だったので、午前中に卒業式を終え、お昼を食べて午後の片付けをしているとき、突然何かが地面の下から突き上げてくるような大きな揺れが私を襲いました。立っていることもできなかったので、慌てて近くの机に掴まろうとした、次の瞬間、さらに大きな揺れが私を襲い、床に倒れこんでしまいました。どんどん物が倒れ、校舎が揺れる様子を見ながら（このまま死んでしまうかもしれない）と思いました。
　これがその時の学校の様子です。
【写真提示】校舎内にあるものはほとんど床に倒れていました。



　しばらくすると、島で生活している顔なじみのおじいさん、おばあさんが次々学校に集まってくるのが分かりました。島のみなさんは、どんなに小さな揺れでも、津波の怖さを知っていたので、必ず島で一番高い場所にある学校に避難してきました。そして、このことが島のみなさんの命を救うことにつながりました。
【写真提示】これは、津波が通ったあとの様子です。ここにはたくさんの家が建っていたのですが、全部流されてしまいました。
　私は時々、今の生活が当たり前に思え、１１年前の震災の時に、自分がたまたま生かされた命であることを忘れてしまっていることがあります。
　あの日、あのとき、まさかあんなことが起こるとはだれも思っていませんでした。
　そして、誰もが（死にたくない）（まだ生きていたい）と思っていたのですが、宮城県だけでも一万人近くの尊い命が失われてしまったのです。

　今みなさんは、これから帰って何をしようか、考えていると思います。友達と遊ぶ人、習い事に行く人、おやつを食べる人、みんなこれから何をしようか考えていますね。あの日、命を落とした小学生のみなさんも、みなさんと同じ普通の小学生だったのです。
　そして、６年生みなさん、君たちと同じように、間もなく迎える卒業式を心から楽しみにしていた６年生もいたのです。
　　どんなに苦しかったでしょうか。
　　どんなに辛かったでしょうか。
　　そして、どんなに悔しかったでしょうか。
　私は今でもその子供たちのことを思うと胸が張り裂けそうな気持ちになります。
　このあと、午後２時４６分、東日本大震災が起きた時刻を迎えます。亡くなった方々が安らかでいられるよう私と一緒に黙祷をして、祈りを捧げてください。これで私の話を終わります。

（文責：手代木）